

問いかけ 浮島

わたしは二月の霧の中へ去りたい

とあなたは言った

ぼくにとって

願いとよぶには淋しすぎる問いかけだった

川べりにかかる橋に

そいつはぼうと

甘くかった

(見て、)

(タチツボスマレ、)

黒装束に身を固め

ぼくたちは参列した

水辺に

真っ暗な夜の霧、

踏みしめる腐葉土、ため息の風景に

(くるしく)

むつびあう

あなたはそつと歩をとめて

あなたの影をさしだした

なぜだ

ぼくたちみたいな藍色が

硬貨となって放られる

(わたしは向こうの霧へとかえる)

川よ ぼくだけが賽を投げよう

お前はあまりにもあんまりな問いかけだ

無責任 十三号

チンチロリンそれでも少し進
音はく
人生が空転する
になる時
嫌
い
が
数
裏運命を立方体で占うと七つ
側は決して見せぬはず
清
水
ら
で
ん
け
る
目
の
ユ
メ
ど
り
着
け
な
い
う
の
に
誰
も
が
見
抜
き
誰
も
が
笑
う

無責任 十三号

責任者 清水らくは

副責任者 浮島

連絡先 rakuha@hotmail.com

発効日 2013年3月1日